

—総括表—

◆ 事業計画 一人ひとりの困りごとや地域の課題を受け止め、『みんなで解決するまちづくり』を展開します！

□ 地域の現状と今後の方向性

- ・下和泉地区
【地域特性】駅までは高齢者にとっては便数の少ないバスが頼りで、買い物先や病院が近隣に少ない。
【方向性】『移動に関する支援』が必要！
- ・富士見が丘地区
【地域特性】徒歩圏内には商店が少なく、約50年前に造成されたエリアの住民が一斉に高齢化する見込。
【方向性】『普段の暮らしを支える支援』が必要！

□ 今年度の重点的な取組

新規	継続	—具体的な取組内容—
■	□	早期発見・介入による重篤化・複雑化防止を図るため、下記に取り組みます【1(1)(2)(5)、2(6)】 ・民生委員と定期的に会合を持ち、お互いの情報を共有できる機会を設けます。 ・住民支え合いマップの実施を支援し、人的資源や地域課題を抽出します。
□	■	外出意欲の向上など移動に関する支援を検討・展開するため、下記に取り組みます【1(3)(5)】 ・協議体『ほかほかマート実行委員会』・『移動を考える会』を継続支援します。 ・ケアプラザ以外の会場での、介護予防に資する活動や認知症カフェの実施を支援します。
■	□	さまざまな機関と協働しながら新たな人材を獲得するため、下記に取り組みます【1(4)(6)】 ・福祉保健分野以外の企業や商店、関係機関等に、地域活動とつながる機会をつくります。 ・シニアボランティアポイントの周知や男性向け講座の開催等を介して、活動の機会を設けます。
□	■	認知症になっても安心して暮らせる地域を目指すため、下記に取り組みます【2(1)(3)(4)(5)】 ・認知症サポーター養成講座やキャラハンメイト連絡会、ケアマネジャーと民生委員の交流会等を実施します。 ・地域のインフォーマルサービスの情報提供や、研修の開催を介してケアマネジャーの資質向上に寄与します。
□	■	職員の資質向上と連携の促進を図るため、下記に取り組みます【1(7)(8)、2(2)(5)】 ・目標管理による人事考課を実施し、各種研修への参加も促進します。 ・部門会議、部門を超えた会議、区・区社協との会議等を介して、必要とされる事業を実施します。

◆ 事業報告・事業実績評価

□ 振り返り

★職種・部門を超えた協力体制を構築して事業を展開し、特に下記について成果があがっている。
①総合相談の内容を整理・分析して民児協定例会で共有するとともに、民生合同勉強会を開催。個別支援力の向上を支援した。支え合いマップでは課題をもつケースを抽出し、個別レベルの地域ケア会議を開催した。
②『地域にあるお気に入りの場所』をヒアリングし、外出意欲を引き出し、閉じこもり防止に役立てるためのマップにまとめた。また、マップ掲載を通じて、圏域の店舗との関係性を構築した。住民主体の通いの場の再開に向け、コロナ禍でも可能な内容にシフトできるよう支援した。ほかほかサロン再開にあたっては、下和泉連合町内会との共催とし、連合町内会館を会場に変更することで、より地域に開かれた場となった。
③シニアボランティアポイント周知を目的とした広報紙での啓発や、男性料理グループとの栄養講座共催等で、男性が活躍できる場を支援した。また、主に児童対象の居場所を、ボランティアとともに新規開設した。
④地域向けに認知症についての啓発を図ることや、認知症サポーター養成講座の開催を介して、認知症の方やそのご家族を地域でサポートしていく新たな人材発掘をねらった。ほかほかサロン再開にあたっては、5職種の他、居宅部門とも意義、目的、内容を検討した。

□ 区からのコメント

(地域活動交流)

3月から始めたTwitterでは、写真を豊富に使用しており、視覚的にもケアプラザの活動等の様子がよくわかり、幅広い層への効果的な情報発信となっています。
また、子ども達の居場所「しもずく広場」を新たに開始し、コロナ禍で居場所がなくなった子どもへの場の提供ができました。夏休みだけではなく、12月から再び開催しているとのことで、次年度以降のさらなる展開を期待します。

(地域包括支援センター)

2地区合同の民生委員勉強会の実施や、「介護予防×終活」をテーマとした終活講座など、地域の課題感を捉えた取り組みが行えていました。日頃から、5職種会議を毎月実施し、情報共有や意見交換などを行っているため、各職種間で自然と連携ができています。この結果が、地域へのきめ細かい支援に繋がっています。
また、オンライン会議の活用など、状況に合わせた個別支援が実施できています。引き続き、地域住民や関係団体等とのさらなる連携を期待しています。

(生活支援体制整備事業)

コロナ禍においても、担い手支援や新たな地域課題への取組を継続して実施することができました。泉サポートプロジェクト支援事業では、モデル地区として地域住民と検討を重ね、外出支援のための「ほかほかマップ」が完成したことは大きな成果です。次年度も関係機関、団体と連携し地域のネットワークを広げる活動を期待しています。